

劇場法に望むもの

劇作家・演出家、大阪大学教授

平田 オリザ

2012年、「劇場、音楽堂などの活性化に関する法律」いわゆる劇場法が成立し、さらに「事業の活性化のための取組に関する指針案」が示された。現在は、この指針案に対するパブリックコメントが求められている。

およそ、いずれの法律もそうであるように、様々なステークホルダーによって、その法の意味するところは異なるだろう。本文では、創作者の立場でこの法律を推進してきた私自身の「想い」を率直に書いておきたいと思う。

「劇場法」には様々な要素があるが、その重要な柱の一つは、劇場を創造の場として定義し、そうであるならば、それを担う専門家を配置するべきだとした点にある。専門家とは、演劇に関して言えば俳優、演出家、スタッフ、プロデューサーなどを指すと考えられるが、やはりその中核をなすのは、芸術監督（あるいは音楽監督）の設置だろう。

私の個人的な願いは、この劇場法を契機に、徐々に芸術監督制度を中心とした劇場文化が日本に定着し、そのことが最終的に、日本の演出家（あるいは指揮者）の水準を底上げしていくという点にあった。

昨今、日本演劇界からは、30代の若手演出家が次々にヨーロッパのマーケットで活躍し始め、喜ばしい限りである。一昔前までは、日本の多くの演出家たちは、40代、50代になってから渡欧するのが相場だった。さて、その場合に最初に聞かれる質問は、「あなたはどこの劇場で仕事をしているのか？」というものだ。そして、「紀伊國屋ホールや本多劇場です」と答えれば、次には、「あなたは、そこの芸術監督なのですか？」と聞かれるだろう。そして、「いや、そこを1日30万円で借りています」と答えた時点で、その演出家はほぼ相手にされなくなる。作品が、とんでもなく素晴らしければ別だけれど。

ドイツ、フランスを中心とした欧州の大陸サイドでは、劇場における創作や年間プログラムと、各地で開催されるフェスティバルという、主に二つの大きなマーケット

が存在する。二つの巨大な円盤が、少しズレながら並行に回っていて、それを一つの心棒が垂直方向に支えているようなイメージだ。各地のフェスティバルを回り続ける作品もあるが、フェスティバルで発見された作品が劇場の年間プログラムに組み込まれていくことも多い。逆に、劇場の創作作品がフェスティバルに出て行くこともある。

いずれにしても、この二つのマーケットを支えているのは、演出家、プロデューサー、ドラマタッグを中心とした人的ネットワークであり、いわば、フェスティバルや劇場に「呼ぶー呼ばれる」の関係が構築されている。あたかも、美術館のネットワークの出発点が、収蔵品の貸し借りという力関係にあるように。

先にも記したように、もちろん芸術の世界であるから、最も重要なのは作品の質である。作品の質が悪ければ、どこにも呼ばれないし、声もかけられない。しかしそれと同じくらいに重要で、劇場間のネットワークを支えているのは、芸術家同士の友情や信頼や連帯である。

フェスティバルトーキョー、京都エクスペリメント、TPAMなど、国際水準のフェスティバルや見本市が整備され、日本の若い才能が海外にダイレクトに買い取られていくようになった。しかし、彼らが次のステップに上がるためには、国内のマーケットを、さらに国際水準に引き上げなくてはならない。劇場を創作の拠点とし、その年間プログラムの策定に責任を持つ芸術監督を設置し、若い才能をここに登用しなければならない。

呼ばれればなしでは対等の付き合いにならないというのは、ごく簡単に想像できることだろう。

Jリーグの成功が、サッカー日本代表チームの水準を確実に押し上げていったように、国内マーケットを世界標準にすることが、アウェイで闘えるアーティストを育てる唯一の道だ。私たち演出家にとっては、劇場法は、その第一歩にすぎない。

会計報告

東京で開催された総会で、2011年度収支決算および2012年度収支予算が承認されました（2012年9月29日）。

■文化経済学会〈日本〉2011年度収支決算書（2011.4.1-2012.3.31）

<収入>	予算額	決算額
会費収入	7,040,000	6,170,000
個人会費	6,640,000	5,770,000
団体会費	400,000	400,000
研究事業収入	1,000,000	1,011,000
大会参加費など	1,000,000	1,011,000
助成金	0	0
普及事業収入	1,225,000	2,903,320
講演会参加費など	225,000	344,000
助成金(アジアワークショップ)	—	1,800,000
出版物収入	0	0
学会誌収入	1,000,000	759,320
寄付金収入	1,000,000	1,546,000
雑収入	1,000	6,661
事業調整積立金より繰出	309,000	309,000
20周年事業基金より繰出	300,000	300,000
当期収入合計	10,875,000	12,245,981
前期繰越収支差額	726,711	726,711
収入合計	11,601,711	12,972,692

<支出>	予算額	決算額
研究事業費	4,000,000	3,505,085
研究大会	1,300,000	1,536,744
学会誌	2,200,000	1,494,780
編集費	300,000	281,520
送料	200,000	192,041
普及事業費	909,000	2,300,800
講演会	300,000	319,886
20周年記念事業	609,000	562,596
アジアワークショップ	—	1,418,318
広報費	900,000	277,250
ニュース	30,000	35,610
編集費	200,000	126,000
インターネット	200,000	39,850
学会HPリニューアル	420,000	50,000
送料	50,000	25,790
学会運営費	3,750,000	2,679,181
理事会	100,000	11,250
理事会交通費補助	700,000	220,600
20周年記念事業準備費	700,000	5,820
支部活動補助	200,000	70,000
名簿	0	0
事務委託	1,700,000	1,651,542
臨時雇賃金	0	0
通信費	200,000	158,602
消耗品費	100,000	90,980
印刷費等雑費	50,000	470,387
経済学会連合会費	—	35,000
20周年記念事業基金に繰入	1,000,000	1,546,000
アジアワークショップ助成金残返還	—	381,682
予備費	200,000	0
当期支出合計	10,759,000	10,724,998
当期収支差額	116,000	1,520,983
次期繰越収支差額	842,711	2,247,694
合計	11,601,711	12,972,692

■2011年度決算・2012年度予算に係る補足事項

<20周年記念事業関係>

20周年記念事業に関して、会計書類上は記載されない事項（学会会計に組み込まれない部分）について、以下の通り、補足させていただきます。

2011年11月の秋のシンポジウム（セッション2）については、東京都、トーキョーワンダーサイトより、通訳費用（519,750円）負担、および中国、香港から海外講師2名を招聘（渡航・滞在費用負担含む）していただきました。

また、2012年6月の国際文化経済学会京都大会開催中の懇親会に対して、サントリーホールディングス（株）より、400名分のソフトドリンク、各種アルコール飲料の現物提供をいただきました。同大会開催中の文化プログラムにかかった経費（笹岡隆甫氏謝礼・材料費、六斎念仏謝礼）については、京都文化交流コンベンションビューローから300,000円の助成金をいただきました（この助成金は、同助成プログラムの規定上、当学会の会計に入らない形で支出されたため、ここに記します）。

20周年記念事業につきましては、ご寄付をいただきました会員の皆様、ご支援ご協力をいただきました企業・団体の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

■貸借対照表 (2011. 4. 1-2012. 3. 31)

資産の部			負債及び正味財産の部		
	2010	2011		2010	2011
現金	0	0	負債 未払金	1,299,135	2,192,969
銀行普通預金	956,187	2,369,538	前受金	100,000	50,000
銀行定期預金	2,530,754	2,530,997	預り金	126,945	0
郵便振替口座	1,221,630	2,811,750	借入金	0	0
論文投稿等未収入金	354,000	374,000			
仮払金(国際交流基金)	846,000	190,000	事業調整積立金	2,150,000	1,841,000
前払費用(会議会場費)	—	18,400	20周年記念事業基金	1,505,780	2,751,780
ACEI2012費用仮払金	—	788,758	次期繰越収支差額	726,711	2,247,694
合計	5,908,571	9,083,443	合計	5,908,571	9,083,443

■文化経済学会〈日本〉2012年度収支予算書 (2012. 4. 1-2013. 3. 31)

<収入>			<支出>		
	2011年度決算	2012年度予算		2011年度決算	2012年度予算
会費収入	6,170,000	6,398,800	研究事業費	3,505,085	3,800,000
個人会費	5,770,000	5,998,800	研究大会	1,536,744	1,300,000
団体会費	400,000	400,000	学会誌	1,494,780	2,000,000
研究事業収入	1,011,000	800,000	編集費	281,520	300,000
大会参加費など	1,011,000	800,000	送料	192,041	200,000
助成金	0	0	普及事業費	2,300,800	12,266,710
普及事業収入	2,903,320	12,130,988	講演会	319,886	0
講演会参加費など	344,000	0	20周年記念事業	562,596	0
助成金(アジアワークショップ)	1,800,000	—	アジアワークショップ	1,418,318	0
ACEI参加費など	—	8,662,988	ACEI2012	—	11,616,710
助成金(ACEI2012)	—	1,918,000	海外講師招聘講演会	—	100,000
補助金(ACEI2012)	—	550,000	【仮】20周年記念出版事業費	—	550,000
出版物収入	0	0	広報費	277,250	738,000
学会誌収入	759,320	1,000,000	ニュース	35,610	25,000
寄付金収入	1,546,000	390,000	編集費	126,000	168,000
雑収入	6,661	500	インターネット	39,850	100,000
事業調整積立金より繰出	309,000	220,000	学会HPリニューアル	50,000	420,000
20周年事業基金より繰出	300,000	2,751,780	送料	25,790	25,000
当期収入合計	12,245,981	22,692,068	学会運営費	2,679,031	3,100,000
前期繰越収支差額	726,711	2,247,844	理事会	11,250	100,000
収入合計	12,972,692	24,939,912	理事会交通費補助	220,600	500,000
			20周年記念事業準備費	5,820	0
			支部活動補助	70,000	200,000
			名簿	0	0
			事務委託	1,651,542	1,700,000
			通信費	158,602	200,000
			消耗品費	90,980	100,000
			印刷費等雑費	470,237	300,000
			経済学会連合会費	35,000	35,000
			20周年記念事業基金に繰入	1,546,000	0
			アジアワークショップ助成金残返還	381,682	—
			ACEI国際大会剰余金配分額	—	650,000
			国際関係事業基金へ繰入	—	650,000
			予備費	0	200,000
			当期支出合計	10,724,848	21,439,710
			当期収支差額	1,521,133	1,252,358
			次期繰越収支差額	2,247,844	3,500,202
			合計	12,972,692	24,939,912

2013年
6月29・30日
(土・日)

2013年度研究大会は、東京都文京区の東京大学で開催されます

2013年度研究大会（東京）

開催へ向けた日程等のご案内

2013年度研究大会開催へ向けた日程等を下記の通りご案内申し上げます。

■日程：2013年6月28日（金）・29日（土）・30日（日）*28日はエクスカージョンを予定

■会場：東京大学本郷キャンパス 法文2号館および法文1号館

■発表申込み日程（学会HPにてオンラインシステムにより受付）

2013年2月4日（月）受付開始 ～ 3月10日（日）受付締め切り

■参加申込み受付日程（学会HPにてオンラインシステムにより受付）

2013年5月中旬 受付開始 ～ 2013年6月中旬 受付締め切り

そのほか、重要な日程や情報、プログラム等につきましては、順次学会HPにて公開いたします。

学会誌「文化経済学」編集委員会より

1. 論文の投稿について

「文化経済学」は、年2回発行され、年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

		第10巻第2号 (通巻第35号)	第11巻第1号 (通巻第36号)
締切	論文エントリー	2013年1月末	2013年7月末
	論文提出	2013年3月末	2013年9月末

<応募・掲載条件>

論文の応募（エントリー）は本学会員に限られます。学会費が未納の方は論文のエントリーをすることはできません。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています。（2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします）

<応募方法>

FAX、email、郵送のいずれかで、下記7点を事務局（本誌末の連絡先）までお送り下さい。

①応募日付 ②応募者名 ③会員番号 ④所属 ⑤タイトル ⑥論文要旨（400字程度） ⑦応募者連絡先

<応募にあたっての留意事項>

- ・過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- ・論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- ・歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- ・応募する論文は未公表のものであること。また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。
- ・提出先・提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会のウェブサイトを必ず参照のこと。

<http://jace.gakkai.ne.jp/bosyu.html>

2. 学会誌における書評について

学会誌の書評で取り上げて欲しい本がありましたら、メールにて書名をお知らせください（宛先：ktomooka@tcue.ac.jp）。また、書評のための献本をしていただける場合は、友岡邦之編集長まで送付をお願いいたします（宛先：〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学地域政策学部 友岡邦之宛。なお、事務局宛の献本は受け付けておりませんので、ご注意ください）。その後編集委員会で検討し、取り上げるべき本と判断されれば、評者を選定の上、学会誌に書評を掲載します。

理事会報告

文化経済学会<日本>第X期第9回、 第XI期第1回理事会

日 時：2012年 9月29日(土) 13:00～14:45

場 所：埼玉大学東京ステーションカレッジ
(サピアタワー9階) A2・A3 教室

出席者：後藤会長(第X期)、清水副会長(第X期)、
河島理事長(第X期)、有馬、井口(典)、小野田、
勝浦、川井田、草加、阪本、佐々木(亨)、佐々木(雅)、
友岡、野田、藤原、増淵、美山、米屋、曾田、
事務局2名

委任状提出者：21名

欠 席：5名、3団体

今回は第X期とXI期の理事会を合同で開催した。

第X期第9回理事会

〈第1号議案〉2011年度事業報告・決算について

河島理事長より、総会資料をもとに、2011年度事業報告ならびに収支決算書について説明がなされた。さらに、個人監事の吉田和男氏、団体監事の企業メセナ協議会の荻原康子氏によって監査が行われ、決算が適法正確とみとめられたことが報告された。

〈第2号議案〉20周年記念事業寄付金募集活動終了報告

草加理事より、配布資料をもとに、20周年記念事業の寄付金募集活動について総括された。これに対し、記録に残すべき事項につき指摘がなされ、それらを反映した資料を再提出することになった。

〈第3号議案〉ACEI2012(国際学会)について

後藤会長より、本年6月に行われたACEI京都大会について、成功裏のうちに終了したことが報告された。理事からも、京都大会はとても充実しており、ホストの同志社大学の方々に感謝したい旨の発言もあった。

〈第4号議案〉20周年記念事業決算見込みについて

河島理事長より、20周年記念事業会計処理(案)の資料に基づき、決算の見込みと今後の収支差額の使い方についての提案がなされ、すべて承認された。

〈第5号議案〉その他

第X期理事会は以上で任期を終了したことをふまえ、後藤会長から理事に対して、これまでの協力に感謝したい旨の発言がなされ、今期の理事会を終了した。

第XI期第1回理事会

〈第1号議案〉2013年度東京大会について

井口典夫理事より、配布資料をもとに、2013年6月29、30日に東京大学(本郷キャンパス)で開かれる研究大会の運営体制、シンポジウムテーマ案についての報告があった。エクスカージョンの実施等につき、実行委員会に持ち帰り、検討することとなった。

〈第2号議案〉会員入退会について

新たに持ち回りで審議済みの入会が1名、団体の入会が1件あったことと、前期理事の若松美黄氏が逝去され退会となったことの報告があった。さらに、3名の入会申し込み、その他6名からの退会の申し出があった。入会は全て承認し、退会については4名については承認し、2名については慰留することとなった。

〈第3号議案〉今後の理事会体制と理事長の選出について

全会の一致により、名城大学の勝浦正樹理事が理事長として選出された。理事会の中での担当役員は、学会誌編集を友岡邦之、広報を佐々木亨・吉本光宏、国際関係を後藤和子・勝浦正樹・河島伸子、日本学術会議を山田太門、日本経済学会連合を後藤和子・八木匡、2012年度研究大会を藤原惠洋、2013年度研究大会を小林真理、2013年度秋の講演会を佐々木亨各理事が務めることとなった。学会ウェブサイトの担当については別途依頼することとなった。

なお、団体幹事、団体理事については調整中であり、結果については、今後理事会メールで報告されることとなった。

〈第4号議案〉2012年度事業計画・予算について

勝浦理事長より、2012年度の事業計画・予算について、総会資料をもとに説明が行われ、記載内容の通り了承された。

〈第5号議案〉2012年度熊本研究大会について

藤原理事より提出資料をもとに、現在までの準備状況についての詳細な説明があった。今後は、大会に関する情報発信ができるだけ早い時点で行われることが望ましいという意見があり、藤原理事はそれに応えることを了承した。

〈第6号議案〉その他

2013年度秋の講演会の開催地について、どこか引受け手がないかと清水会長より投げかけられ、北海道大学の佐々木亨理事が、北海道支部に持ち帰り、現地の

意向を打診してみることになった。また、清水会長が、将来構想を練るワーキング・グループを立上げたい旨を述べ、立上げには全会が賛成した。

次回の理事会は、熊本大会の期間中の11月25日の12時より開催することとなった。

入退会情報（敬称略）

●第XI期第1回理事会（2012.9.29）にて承認

入会

朝田康禎（熊本大学）／作間逸雄（専修大学）／辰巳清（アミューズミュージアム）

退会

6名

●理事による書面審査にて承認（2012.11.8）

入会

下出祐太郎（京都美術工芸大学）／鈴木しおり（北翔大学）／濱田泰以（京都工芸繊維大学）

《支部活動報告》 関東支部活動報告

去る2012年12月6日（木）に関東支部研究会を開催いたしました。今回は国立国会図書館での開催となりました。会場のセッティング等は国会図書館の柳さん、井上さんのご尽力もあり、素晴らしい研究会を開くことが出来ました。心から感謝申し上げます。

今回の研究会は三菱UFJリサーチ&コンサルティング、芸術・文化政策センター長であり主席研究員の太下義之さんに「食文化と地域振興～庄内鶴岡における食文化と地域振興戦略～」というテーマでご報告いただきました。研究会には食文化にご関心のある方が多く参加され、専門の分野が異なる20名の参加者による活発な議論が行われました。今回の研究会には武蔵野美術大学の大学院生の方にも参加していただき、これまでとは雰囲気異なる研究会となったことを付記しておきます。研究会は19時から20時30分までの開催となりました。

さて、太下さんによるご報告ですが圧倒的な情報量による新しい発見が多く得られるものでした。「食文化創造都市 鶴岡」を出発点として、山形県鶴岡市における食文化にかかわる現状について分かりやすくご紹介され

ました。特に山形県という自然に恵まれた場所にて生産された品質の高い農産物は、自然環境の良さによって育まれたと考えてしまいがちです。しかし、太下さんは農家の方の努力（畑に撒く種の選別など）も品質に影響を与えていることを指摘します。

さらに、在来作物と呼ばれるその地域特有の農作物をどのように活用するかについて、在来作物レストランのお話をされました。在来作物の魅力を最大限活かした調理法を考えるという取り組みは、非常に興味深いお話でした。鶴岡市は食育にも力を入れており、子どもたちにも食文化を理解してもらおうという取り組みや、大学と連携しての農業に関する研究など、多くの活動を鶴岡市が行っていることが理解できます。また、最後には食文化をいかに残していくかというアーカイブについても問題提起されました。これは、貴重な文化資源をどのように保存していくかという文化経済学における重要な研究テーマとリンクする部分も多いと思います。

このような様々な問題について太下さんは分かりやすく丁寧に説明され、ご報告の後の質問コーナーも絶えず活発な議論が行われました。研究会後の懇親会についても、自由な議論で有意義な時間が過ぎていったことは言うまでもありません。

関東支部研究会は今後も開催いたします。ご興味ご関

心のある方であればどなたでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。次回の研究会の詳細が決まり次第、メーリングリストにてお知らせいたします。(牧 和生)

季刊「文化経済学会」 No. 83
2013年1月31日発行
ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会<日本>
発行人 清水 裕之
編集人 佐々木 亨

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10 アーバン大塚3F
(株)ガリレオ 学会業務情報化センター
E-mail : g018jace-mng@ml.gakkai.ne.jp
URL : <http://www.jace.gr.jp/>

© 2013, Japan Association for Cultural Economics